

第14回市民自治推進委員会 会議録（平成29年2月9日）

発言者	発言内容等
第1部	開会挨拶 事例発表（あったかなまちづくり活動支援事業） 講評
第2部	開会挨拶 講演 事例発表（地域コミュニティー活性化モデル事業） 講評
事務局	本日の事例発表会についてご意見を願います。
委員	あったかなまちづくりの事例発表会については、もう少し時間を与えてあげてほしい。また、蕪崎地区の「アサリの放流事業」は、アサリが採れるようになれば、四国中央市の観光スポットとしても効果が表れるのではないかと思う。
委員	現在は補助金に頼った活動になっている。今後は補助金に頼らなくてもコミュニティー活動ができるようにしてほしい。
委員	第1回目と比べて、「事業のための市民活動」から、「市民活動から事業が生まれる」という形に変わってきていると感じた。
委員	事例発表を聞いて、地元でこんな立派な事業があることは知らなかった。社協にもよく似た事業がある。どちらも地域の協力が大切である。蕪崎地区の会長の「綺麗な海岸にすることが僕の夢です。」という言葉は、非常に印象的だった。地域に対する熱い思いがある方がいれば事業を進めやすいと思う。
委員	3地区の発表の中でリーダーの育成が今後の大きな課題になってくると感じた。蕪崎地区の海岸清掃とアサリの放流事業は、漁協とタイアップして子供参加型の事業としている。これは他の地域にはないことなので、ぜひとも地域に根付いた事業として続けてほしい。
委員	公民館の中には運営審議会という組織がある。コミュニティ組織のメンバーとほぼ重複している。地区社協でも公民館単位で地域座談会を行い地域課題の洗い出しを行っている。公民館活動と、地域コミュニティ活動の違いはどこにあるのかと思う。将来的な動きとしては一致させる方がいいのか、別々に独立した動きを考えるべきなのか、混乱している部分もある。今後整理していきたいと思う。
委員	3地区のモデル事業は非常に良い方向に進んでいる。予算の問題もあると思うが他の地区でもぜひ広げてもらいたい。
事務局	平成29年度から、他の地区でも拡大していきたいと考えている。ただ、平成29年度は国体が開催される予定であるため、平成30年度以降にはたくさんチャレンジ

	<p>してもらえぬ地区が増えてくると考へている。今後、各公民館で地域コミュニティ活性化事業の募集にかかるヒアリングを行う予定である。</p>
委員	<p>財源はどこから支出する予定であるのか。</p>
事務局	<p>今のところは、市単独の補助金として支出する予定である。コミュニティ活動と公民館事業の違いとしては、「地域課題解決のための事業を、地域の方が自ら考へて行動する」ところだと思ふ。例へば、花いっぱい運動は、同じ事業内容でもそこに至るまでの過程が違ふ。将来的に全地区で実施する時は、各地区に支出されている様々な補助金を統合した交付金とし、お金の使い方についても地域で考へていけるような制度を検討したいと思ふ。</p>
	<p>閉 会</p>